

■ 現状

しかし欧米に遅れているとはいってもどの程度なのか？それをふまえたうえで日本の現状に触れていきましょう。具体的な数字をあげるとロンドンやパリでは100%、ベルリンやハンブルグでもほぼ100%の無電柱化を達成。

それに比べ日本では、東京23区の場合でもわずか7.3%と大きく立ち遅れています。特に身近な生活道路（非幹線道路）での無電柱化率が低い結果となっています。ここで誤解の無い様に言っておくと電線類地中化率ではなく無電地中化率です。実際大都市では地中化されていることも多いですが、見えないよう裏庭などに配線されている場合も多く、また、これは必ずしも景観上の配慮ではありません。例えばニューヨークでは、被覆技術がまだ無く、切れた電線に感電する事故が多かったのです。ロンドンでは、街灯を設置する際、ガス灯は地中化せねばならず、電灯と公平に競争させるため、電灯でも地中化することを義務付けたためです。また、郊外では電柱や電線が用いられています。しかし問題はこれだけではありません。19世紀末、アメリカ・シカゴでシティービューティフル運動が起こりました。日本で言う商工会議所が音頭を取って都市美化運動を展開し、アメリカ全土に広まりました。日本に有史以来そのような動きがあったのでしょうか？少なくとも街作り地域作りで、市民、住民が、立ち上がり成果を見た例はありません。昨今、自然保護、環境破壊、食品不安になるとマスコミの煽りもあって燃え上がります。無電柱化にそれが期待できません。つまり現代の日本人はまずあまりこういったことに興味がないのです。その意識が欧米との格差を生み出す要因として挙げられます。

*** NPO メールマガジン発行のお知らせ ***

この度、NPOではニュースレター発行と平行し、メールマガジンの発行が決定しました！

発行頻度は毎月1日、15日の2回です。メールマガジン発行に関する詳しい内容は後日お知らせ致します。

お楽しみに！

編集後記

今回、ニュースレターという初めての試みでした。皆様、NPOの活動、そして地中化に関して、少しでも知識を増やしていただけたでしょうか。今後もこのような形でさらにコンテンツを増やし、中身の濃いニュースレターの発行を目指していきますので、何卒宜しくお願い致します。

次回の発行は7月15日になります。

(事務局員 坂口)



NPO ニュースレター（仮名） スタート号

発行日 2008年6月15日号

発行者：NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇

理事長よりご挨拶

これからの地域発展は、どれだけの住む人、訪れる人、そして民間投資を誘い込めるか、そのために価値ある街を市民・企業も一体となって創り続けられるかに懸かっています。逆にそれが出来ない街は、さびれる道をたどります。価値ある街に不可欠な要素は景観であり、電柱・電線地中化はそのシンボル事業となる時代を迎えています。その先頭行く私たちに大きな期待がかけられています。

がんばりましょう！

(理事長 高田 昇)



*** NPC 企画 美しい街並み見学会開催！ ***

来る3月28日金曜日、NPC企画“美しい街並み”見学会が開催されました。

この企画は、実際に電線類が地中化された街並みと、地中化に携わった人々の話を聞くことで、より多くの人に、地中化に関する知識を深めてもらおうという趣旨のもと行われたものです。今回、大阪府交野市にある住宅地コモンシティ星田と、京都府祇園の花見小路を巡りました。

*** 午前8時50分

JR大阪駅砂時計前に集合。参加者は21名。多くの方に参加していただきました。バスに乗り込み、出発です！！



🌸 バスの車内で

まずは、参加者ひとりひとりの自己紹介！

その後、当 NPO 理事の山本勇先生による、「海外における景観保護の実際 ドイツにおける電線地中化工事の様子」の講演。「法律に基づき綺麗な景観を保つのは住民の権利である」とするドイツの現状を、山本氏の海外経験を踏まえて聞くことができ、大変勉強になりました。

🌸 コモンシティ星田

コモンシティ星田に到着。

コモンシティ星田の自治会長の鈴木さん、積水ハウス株式会社の高田さんの案内のもと、住宅地の中を見学。皆さん、大変興味深そうに、そして、緑豊かで、電線のない街並みの美しさに驚きながら、見学されていました。

その後、集会場に集まり、鈴木さんのお話を聞くことに。当時地中化に携わる中で、電力会社との交渉に苦労したこと、無電柱化で危惧されている地震対策において、阪神大震災が起こった際、埋設管路に損傷はなく、無事であったというお話等、当時の苦労、熱い想いを話していただきました。

🌸 昼食

京都市内の和食屋さんで。皆さん、和気藹々としたムードの中、食事を楽しまれました♪

🌸 花見小路

お昼も過ぎ、いよいよ京都市内の花見小路へ。

まずは、祇園町自治会館にて、花見小路の地中化に携わってこられた NPO 法人アートテックまちなみ協議会の小林さん、祇園町南側地区まちづくり協議会理事長の杉浦さんのお話を 1 時間程度伺いました。実際に、住民と行政と NPO が取り組み実現した花見小路の地中化。その活動に尽力されたお二人のお話しもまた、参加者の方に感動を与えていました。

その後、参加者で各自、花見小路を見学。電柱が地中化され石畳化された通りは、石材の種類、色、表面の仕上げ、デザインパターンとなど細かな要素を段階ごとに一般公開で実験施工し地元の皆さんと選択したこだわりのもの。京都の昔ながらの雰囲気醸し出し、多くの観光客でにぎわっていました。

🌸 見学会を終えて

今回、参加者の方にも大変ご好評いただきました。美しい景観を守りたいという思いが、この地中化を実現させたのだということが伝わり、実に有意義な時間を過ごすことができました。電柱があることが当たり前になっている日本の街並み。こういった経験で、実際の地中化された街並みを見学することにより、日常生活の中で電柱の存在に気づき、少しでも美しい街を作っていきたいと思う人々が増えていくよう、今後もこういった見学会やセミナーを企画していきたいと思っております。参加者の皆様、本当にありがとうございました



地 中 化

コラム



このコーナーでは、電柱類の地中化に関して、毎回、皆さんにわかりやすい解説を行い地中化に関する知識を深めていただきたいと思います♪

電線地中化って何???

今回のテーマは日本の電線地中化の歴史です。

🇯🇵 はじまり

始まりは昭和 60 年 4 月 24 日。建設省の道路局長の諮問機関としてキャブシステム研究委員会というものがあり、その機関によってある報告が同年 10 月 21 日に出されました。

ではその報告とは？簡単に言うと電線類地中化が欧米に比べ大幅に遅れているといった内容です。その報告を受けて今後 10 年間に全国で 1000 キロの地中化を推進するという目標を掲げました。そして、同時にこれを推進する母体となる、計画策定機関として各地に電線地中化協議会を設置する、各地方建設局単位につくるということになったのです。

さらに、これを強化する形で、61 年の 4 月 8 日、経済対策閣僚会議で、その総合経済対策の一環として、10 年を 5 年に縮め倍のスピードで 1000 キロを達成しようということで計画がつくられたのです。これが日本が国としておこした電線地中化に対する取り組みのはじまりといえます。

